

# たてばやし5つのゼロ宣言 の進行管理について

## 令和5年度実績 令和6年度予定



### 宣言1 自然災害による死者「ゼロ」

館林市の強靱化とともに、市民の防災意識を高め、自然災害による死者をゼロにする。

### 宣言2 温室効果ガス排出量「ゼロ」

再生可能エネルギー資源を最大限に活用することや、日々の生活を見直しエコな暮らしを推進することにより、温室効果ガスの排出量を実質ゼロにする。

### 宣言3 災害時の停電「ゼロ」

エネルギーの自立・分散化（地産地消）により、災害時にも電力受給を継続する。

### 宣言4 プラスチックごみ「ゼロ」

まちや水辺のプラスチックごみをなくす。

### 宣言5 食品ロス「ゼロ」

「MOTTAINAI」（もったいない）の心で食品ロスをなくす。

# たてばやし5つのゼロ宣言実現プラン〈令和5年度実績〉

## 1 たてばやし5つのゼロ宣言について

### (1)概要

世界的な気候変動の影響により、甚大な自然災害が頻発し、気候変動の原因でもある地球温暖化は深刻な問題となっています。また、生態系に深刻な被害をもたらす海洋プラスチック問題、大量の食品廃棄が環境負荷となっている食品ロス問題など、様々な環境問題が発生しています。

群馬県では、これらの課題を2050年までに解決し、災害に強く、持続可能な社会を構築するとともに、県民の幸福度を向上させるため、「ぐんま5つのゼロ宣言」をしました。

本市においても、地球温暖化や気候変動による影響は例外ではなく、群馬県の趣旨に賛同し、令和2年12月に「たてばやし5つのゼロ宣言」をしました。

### (2)宣言内容

#### 宣言1 自然災害による死者「ゼロ」

館林市の強靱化とともに、市民の防災意識を高め、自然災害による死者をゼロにする

#### 宣言2 温室効果ガス排出量「ゼロ」

再生可能エネルギー資源を最大限に活用することや、日々の生活を見直しエコな暮らしを推進することにより、温室効果ガスの排出量を実質ゼロにする

#### 宣言3 災害時の停電「ゼロ」

エネルギーの自立・分散化(地産地消)により、災害時にも電力受給を継続する

#### 宣言4 プラスチックごみ「ゼロ」

まちや水辺のプラスチックごみをなくす

#### 宣言5 食品ロス「ゼロ」

「MOTTAINAI」(もったいない)の心で食品ロスをなくす

## 2 令和5年度の主な取組内容

### (1)宣言ごとの主な取組

#### 宣言1 自然災害による死者「ゼロ」

項 目		主な取組
1	災害への備え	災害への備えとして、輸送会社と避難所への物資輸送、物資拠点施設の運営補助に関する内容で、新たに防災協定を締結したほか、備蓄品の点検・補充を実施しました。

2	減災	災害情報を収集できる環境の整備として、防災情報伝達システムを継続して運用するとともに、令和5年3月に発行したハザードブック第2版の説明会を全公民館で実施しました。
3	災害発生時	台風や大雨などが発生した際には、公園や道路などの安全点検のためパトロールを実施しました。また、災害時の生活用水確保のため、防災協力井戸13件を登録しています。
4	市民の防災意識	自主防災組織の防災訓練に対して、訓練費や資機材の補助、非常食の提供等を行うことで、活動の支援を行いました。

## 宣言2 温室効果ガス排出量「ゼロ」

### 宣言3 災害時の停電「ゼロ」

項 目		主な取組
1	再生可能エネルギーの導入拡大、エネルギーの有効活用	再生可能エネルギー導入促進のため、蓄電池設備設置補助金を交付しました。また、市民向け環境イベントでは、自動車メーカーや電力会社と連携し、脱炭素などの環境にやさしいライフスタイルの啓発を行いました。
2	省エネルギー	地球温暖化対策と熱中症対策のため、県・民間施設を含む20施設をクールシェアスポットとして、クールシェアを推進しました。また、冬季には県・民間施設を含む10施設をウォームシェアスポットとして、ウォームシェアを推進しました。
3	交通による温室効果ガス削減	カーボンニュートラル推進のため、多々良巡回線へ電動バスを導入したほか、公共交通の利便性向上につながる、バス予報(スマートフォンアプリ)を運用しています。
4	温暖化の影響についての啓発	「エコで行こう」をテーマに、環境に関する本130冊を集めた企画コーナーを設置しました。
5	ごみの減量による温室効果ガス削減	ごみゼロ館において、有価不用品をオークション形式で販売しました。(落札合計 316 件・総重量 1,975kg)また、学校給食の残渣は飼料にリサイクルすることで、ごみの減量に取り組みました。(搬出量 60,345 kg)

#### 宣言4 プラスチックごみ「ゼロ」

項 目		主な取組
1	プラスチックごみ削減	ペットボトルの水平リサイクルの推進に関する協定のもと、総重量 244.55t のペットボトルを水平リサイクルしました。また、各種広報媒体や出前講座を通じて、プラスチックごみ削減に向けた普及啓発に取り組みました。市民向け環境イベントでは、大泉高校と連携し、茂林寺沼のヨシを使ったストローを展示するなど脱プラスチックの啓発を行いました。

#### 宣言5 食品ロス「ゼロ」

項 目		主な取組
1	食品ロスの削減	学校の給食時間の放送では、食品ロスや給食の食べ残しについて取り上げ、情報発信を行いました。そのほか、市民向けに各種メディアを活用して、食品ロス削減につながる取組の普及啓発を行いました。

## (2)総評

「宣言1 死者ゼロ」では、防災協定の新規締結や自主防災組織の活動支援により、災害への備え、市民の防災意識の向上に寄与しました。「宣言2 温室効果ガス排出量ゼロ」では、公共路線バスに電動バスが導入されたことで、脱炭素を推進する一助となりました。「宣言3 災害時の停電ゼロ」では、引き続き蓄電池設備設置補助金の運用により推進していきます。「宣言4 プラスチックごみゼロ」では、ペットボトルの水平リサイクルにより、約245tのペットボトルが新たなペットボトルとしてリサイクルされたことで、プラスチックごみ削減に大きく貢献しました。「宣言5 食品ロスゼロ」では、学校における給食の食べ残しや食品ロスについて情報発信を行い、食育に取り組みました。

こうした取組を引き続き行うことで、たてばやし5つのゼロ宣言の普及啓発につなげるとともに、実現に向けては、新規事業を積極的に取り入れていく必要があります。具体的には、再生可能エネルギー設備の導入や再エネ由来の電力に切り替える、公用車のZEV化(※)などが挙げられます。いずれも「宣言2 温室効果ガス排出量ゼロ」につながり、世界的にも急務となっている脱炭素化に寄与する取組でもあるため、最大限の導入に向けて検討を進める必要があります。

※ZEV(ゼロエミッションビークル)

EV(電気自動車)、FCV(燃料電池車)、PHEV(プラグインハイブリッド車)HV(ハイブリッド車)

### 3 令和6年度の新規取組

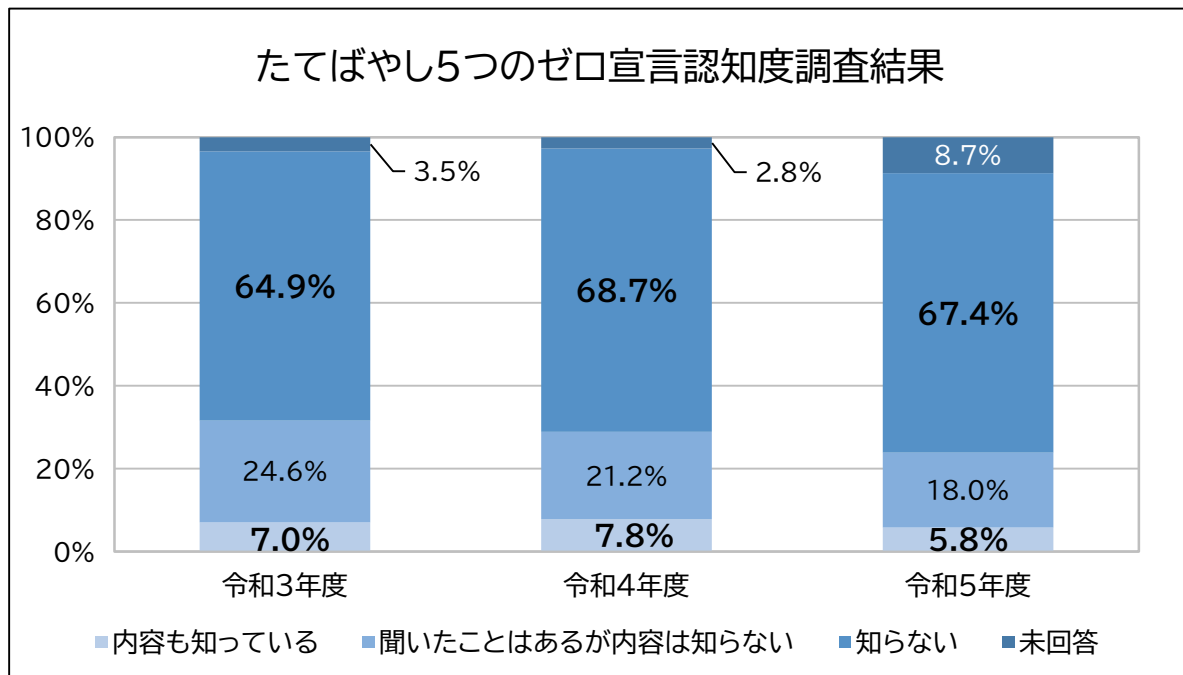
#### 宣言2 温室効果ガス排出量「ゼロ」

項 目		主な取組
1	再生可能エネルギーの導入・活用促進	蓄電池設備設置補助金について、令和6年度より対象機器に V2H(電気自動車等用充放電設備)を追加することで事業を拡充します。

### 4 たてばやし5つのゼロ宣言の認知度

たてばやし5つのゼロ宣言の認知度を図るため、市民向けにアンケート調査を実施しています。調査結果は以下のとおりです。

たてばやし5つのゼロ宣言の内容も知っている人は1割未満にとどまっています。認知度の向上に向けて、たてばやし5つのゼロ宣言に関する取組の紹介を広報紙に掲載するほか、毎月ケーブルテレビにて放送しています。これらについて引き続き実施するとともに、環境イベントにおいても宣伝することで周知啓発を図ります。



出典：市民・事業者アンケート結果より  
(第三次館林市環境基本計画進行管理)